

エコーで簡単に分かる頸動脈狭窄 生活習慣病の人、喫煙者は定期的な検診を



西村内科脳神経外科病院
院長 濱武 諭氏

頸動脈狭窄とは。
頸動脈は、心臓から脳に血液を送る大事な血管です。加齢や喫煙、糖尿病、高血圧、脂質異常(高コレステロール血症)、肥満などの生活習慣病が長く続くと、頸動脈の弾力性がなくなったり、内側にコレステロールや線維などのプラークがたまっていくと、動脈硬化が生じやすくなります。内腔が狭くなったり(頸動脈狭窄症)、詰まったり(頸動脈閉塞症)すると、脳梗塞を発症する危険性が高まります。しかし、このような状態になっても、首の痛みやかゆみ、腫

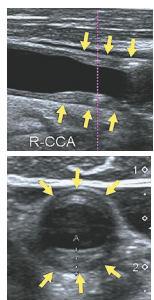
動脈硬化が生じやすい頸動脈は、血管が狭くなったり、詰まったりしてしまつと脳梗塞を発症する危険性が高まります。これらを早期に発見するエコー検査や治療法について、専門医に聞きました。

れなどの症状は全く出ないため、血管が狭くなっているかどうかは検査をしなければ判断はできません。近年、食事の欧米化に伴いこの病気の患者数は増加傾向にあります。また、頸動脈狭窄がある人は全身に動脈硬化が進んでいることが多いのも特徴です。心臓の動脈も狭くなると狭心症や心筋梗塞を発症する危険性も高まります。

頸動脈狭窄を見つけるにはどのような検査法がありますか。

頸動脈エコーは頸動脈の状態を見るのに最も簡単に安全な方法です。血管壁の厚みやその状態(軟らかいか、硬いかなど)、内腔が狭くなっている度合いなどの評価ができます。腹部エコーなど同様に、首にゼリーを塗り、その上からスティック状の検出器を当て検査を行います。検査による痛みや放射線被曝の心配がないため何度でも安心して検査ができます。

プラークで内腔が狭くなった頸動脈(写真上)とその断面



頸動脈狭窄の治療法は。

軽度の場合は、動脈硬化の危険因子である高血圧や糖尿病、脂質異常症の治療を行います。狭窄が進行している場合は、血液をサラサラにする抗血小板剤を服用します。また、狭窄が軟らかいプラークなら、スタチンという悪玉コレステロールを下げる薬を使うことで、小さくなることもあります。狭窄がさらに進行し脳梗塞を起こす危険が高い場合は、血管を切り開きプラークを削り取る手術やカテーテルを使用して網目状の金属の筒を埋め込む治療を行います。

頸動脈狭窄の予防法は。

生活習慣病の原因である喫煙、過食、多量の飲酒、運動不足、睡眠不足などを避け、規則正しい生活を送ることが重要です。また早期に狭窄を見つけるためには、定期的なエコー検査をされることをお勧めします。

労災保険指定病院 生活保護指定病院 原子爆弾被爆者医療指定病院

内科・脳神経外科・消化器内科・循環器内科・放射線診断科・呼吸器内科

医療法人 知新会

西村 内科 脳神経外科 病院

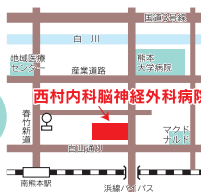
◆健康診査の実施
◆胃・大腸・肝臓・乳ガン検診
◆人間ドック・脳ドック

診療時間 月曜～金曜 9:00～17:00
土曜 9:00～12:00

駐車場
完備

熊本市中央区南熊本2丁目7-7

☎096-363-5111(代)



東部 クリニック

熊本市東区秋津新町1-28

☎096-369-3331

